

## 平成30年度安房地域医療構想調整会議 第1回部会における議論について

### 1. 日時・場所

平成31年2月1日（金）午後7時から8時23分まで 館山商工会議所2階大会議室

### 2. 参加者

医療圏内の病院か及び有床診療所から13名、県医師会、健康福祉センター及び県庁

### 3. 議題

議題（1）病床機能報告における定量的基準の導入に向けた検討について

議題（2）安房地域における医療課題について

### 4. 議題（1）病床機能報告における定量的基準の導入についての主な意見

- ・ 埼玉方式による区分基準がどこまで正しいのか疑問はあるが、レセプトなどから作られたひとつの定量的指標で測ると、実態上回復期機能を担っている病床も多くあるということが示されている。
- ・ 圏域内の病床は必要病床数から500床以上過剰であり、今回のような試算も踏まえ将来に向けてどのようにバランスを取っていくのが課題である。
- ・ 地域の病院が皆今までどおりの体制を維持していくことはできないかもしれない。連携して地域を守る体制を作れるようにしたい。
- ・ 埼玉方式では、外科であっても整形外科や脳神経外科のように平均在院日数が長い診療科は急性期の基準を越えられないことが多くなる。重症度、医療・看護必要度も過渡期にある。
- ・ 回復期の必要病床数はリハビリテーション病棟と医療資源投入量の少ない一般病棟の合計であり、高齢化に伴い回復期が高齢者の救急等を担う、ということも必要になってくる。

### 5. 議題（2）安房地域における医療課題についての主な意見

- ・ 在宅への移行における最大の課題は、外国人では適応が難しい訪問介護の人材不足。
- ・ 介護施設の数はあるが、医師が訪問診療できる施設は多くない。介護医療院が重要になってくる。
- ・ 家庭の介護力が低下しており、自宅療養を希望していた患者さんが家庭の状況で施設に入らざるを得ないということも増えている。
- ・ 重症心身障害児のレスパイト先が印旛圏域まで行かないとない。県南に1箇所は必要である。